



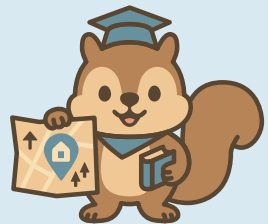
# 不動産情報ライブラリ

## 地図表示ガイド



### 不動産情報ライブラリの概要

- 不動産情報ライブラリは、円滑な不動産取引を促進するための不動産に関する多様なオープンデータ(不動産の取引価格・地価公示・都市計画情報・災害リスク等)を一元的に集約し、地図上に表示するサービスです。
- 利用にあたって特別なソフトを必要としないWebGISを採用し、スマートフォンでも閲覧可能です。
- 不動産情報ライブラリを活用することで、住まい探しをする際に適切なエリア選択ができるようになります。



不動産情報ライブラリス

### 地図に掲載されている主な情報



#### 価格情報

国土交通省地価公示、都道府県地価調査、不動産取引価格、成約価格



#### 地形情報

土地の起伏、大規模盛土造成地等



#### 防災情報

ハザードマップ(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等)、指定緊急避難場所等



#### 周辺施設情報

保育園、小学校区、中学校区、役場、医療機関、福祉施設等



#### 都市計画

都市計画区域、区域区分、立地適正化計画等



#### 人口情報等

人口統計、駅別乗降客数等

### 地図表示・情報確認方法

#### 手順①

トップ画面から「地図表示」を選択



#### 手順②

ナビゲーションバーを選択し表示対象の情報をチェックして決定



#### 手順③

確認したい場所に地図を移動し、対象情報を確認



情報を複数重ねあわせたい場合は手順②と手順③を繰り返してね!



# 不動産情報ライブラリ活用例

## 活用例 [1] 取引価格・成約価格情報と用途地域（都市計画）

### 手順 ①

価格情報から「国土交通省地価公示」と「都道府県地価調査」を選択する。

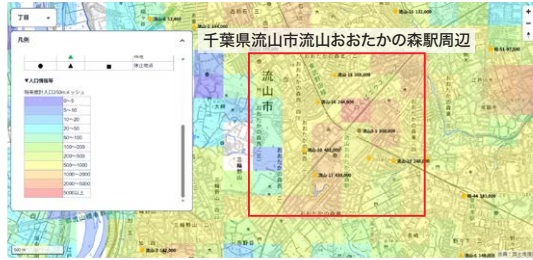
### 手順 ②

人口情報等から「将来推計人口」を選択する。

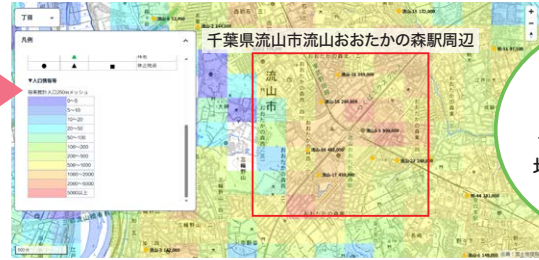
将来の不動産価格予測ができる

将来推計人口を重ねることで、人口増加が見込まれる地域の地価動向を予測できます。

将来推計人口250mメッシュ:対象年2025年



将来推計人口250mメッシュ:対象年2050年



### 活用例

人口増加が予測される駅周辺の地下上昇の可能性を予測する

## 活用例 [2] 地形情報と学区・学校

### 手順 ①

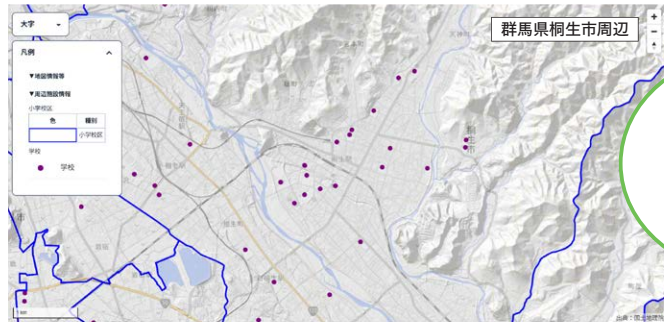
地形情報から「陰影起伏図」を選択する。

### 手順 ②

周辺施設情報から「小学校区、学校」を選択する。

通学利便性の分析ができる

標高差や坂道の多い地域を把握し、居住地選定や通学・通勤ルートの確認に活用できます。



### 活用例

通学・通勤ルートを確認の上、居住地を選定する

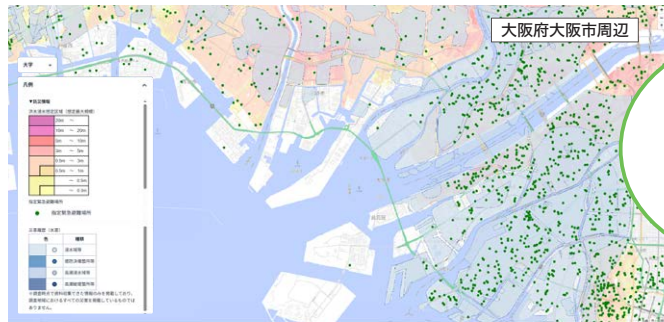
## 活用例 [3] 防災情報（洪水浸水想定区域）と防災情報（災害履歴）、指定緊急避難場所

### 手順

防災情報から、「洪水浸水想定区域（想定最大規模）」、「指定緊急避難場所」、「災害履歴（水害）」を選択する。

防災計画の策定ができる

想定される災害の影響範囲を示す予測データハザードマップと実際に災害が起こった場所を示す災害履歴を重ねることで地域特性を把握した防災計画が作成できます。



### 活用例

災害時の避難ルート等を確認の上、居住地を選定する

